

## 「米軍、空自を実感した研修」



(個人賛助会員)

上出長右エ門窯 五代目当主  
上出 雅彦

夜半からみぞれが雪に変わり、真  
白な木々のトンネルを抜ける様にし  
てターミナルへ。何度乗っても決して  
リラックスできない C-1。我々は  
少人数ゆえに座席は壁を背に左右一  
列ずつでしたが、中央にもう一列設

置すると向かい合った隊員の膝がぶつかると思います。そんな環境で隊員の方々が移動されていると思うと自然に頭が下がります。

入間から3時間・・・那覇基地での昼食後、第9航空団初代団司令兼那覇基地司令の川波空将補と南西航空混成団司令荒木空将より那覇基地の概要と南西域の現状等のレクチャー。6年程前までF-4飛行隊一編成しかなかった那覇基地がF-15の二個飛行隊を備え航空団に新編されたのも十分に頷ける程、近年の隣国の横暴は極まりない。

青い空にたなびく米国旗と国連旗、そして日の丸を眺めながら嘉手納基地。チーク材だろうかオーク材だろうか、木材をふんだんに使ったブリーフィングルームへ。空自の基地では見る事の出来ない上品で格調高い造りの部屋でした。米軍基地研修には何度か参加させて頂きましたが、どの司令官もユーモアたっぷり非常にフランク。第18航空団司令コーニッシュ准将も例外ではありませんでした。沖縄の苦難の歴史を部下に教え、県民の気持ちを理解しつつ同盟国を守る・・・と云う司令官の言葉に重みと彼の人柄を感じつつ和やかな懇親会。ほろ酔いで移動すると、隣にはゲーム機等が並ぶアミューズメントルーム。嘉手納基地にはゴルフ場もありますが、空自基地に同様の施設がもしあったとしたならと考えると、国民性の違い、政治の違いと云うか、軍人に対する尊敬度の違いと云うか、米国を羨ましくも思いましたが、日本の自衛官は決してゴルフ場もゲーム機も望んではいないだろうとも思いました。早朝8時からの朝食には、コーニッシュ司令官も同席されておいでで驚かされましたが、ちょうど食べ終わった頃、凄まじい爆音と共にF-22が離陸。ひょっとして司令官の指示でこの時間に合わせての離陸だったのではと考えてしまう程、米軍の我々に対するホスピタリティを強く感じた時間でもありました。

このような研修はJAAGAでないと絶対に不可能な研修である事を再認識すると共に政治的にどうあれ、現場では米軍と空自が極めて強い信頼関係で結ばれており、深い友情を感じる事が出来た素晴らしい研修でした。またJAAGAの存在意義を強く感じる機会でもありました。お世話頂きましたJAAGAの役員の方々に心より感謝申し上げます。